



羅臼小学校卒業製作

羅臼町

年間を通じてキャリア教育に力を入れる羅臼小学校。

林業・木育に関するプログラムとして、木育マスターほか地域の関係者とともに卒業製作「ククサ(木製のマグ)」づくりを実施しました。

●お問い合わせ先
 しばちゃん工房
 北海道標津郡中標津町東13条北7丁目9
 0153-74-8338 shibacho21@msn.com
 代表 柴田智幸(木育マスター1期)



1 中標津町



2 中標津町



3 厚岸町

釧路・根室の取組

釧路・根室では木育マスター道東支部(2014年10月に釧路・根室地域の木育マスターを中心に設立された任意団体)を中心に、国や北海道、市町村、民間団体と連携した木育の取組が行われています。

左. 平成29年3月1日。羅臼小学校卒業製作。主催：羅臼町教育委員会。運営：木育マスター柴田智幸(1期)、水口郁恵(6期)、羅臼町、北海道根室振興局森林室 1. 平成28年6月19日。北方四島交流事業木育木工体験。主催：中標津町。運営：木育マスター柴田智幸(1期)、北海道根室振興局森林室 2. 平成28年8月9日。木育木工教室～木に触れて、作って、遊ぼう!。主催：中標津町地域材利用促進会議、北海道根室振興局、中標津町。運営：木育マスター柴田智幸(1期)、秋原寛暢(1期) 3. 平成28年11月27日。木育くらぶ～松の蒸留体験会。主催：NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト(木育マスター柴田真由子(6期))。協力：木育マスター酒巻美子(6期) 4. 平成28年10月2日。秋の森であそぼう。主催：森と川のようにえんこロボックル(木育マスター水口郁恵(6期))。協力：知床山考舎



4 標津町



湖畔幼稚園木育教室

釧路市

ユネスコスクールESDアシストプロジェクトにより実施した3回の木育教室。
最後の1回は木育マスター4名など地域の木育関係者総勢22名の講師陣により運営された大がかりなイベントとなりました。

■お問い合わせ先
釧路森林資源活用円卓会議
北海道釧路市黒金町丁7丁目5番地
0154-31-4550(事務局:釧路市(産業推進室))



釧路・根室 の取組



左:平成28年9月30日、湖畔幼稚園木育教室(湖畔幼稚園、釧路市)。主催:湖畔幼稚園、企画運営:木育マスター鈴木憲太郎(1期)、釧路工業技術センター、釧路市産業推進室。協力:釧路森林資源活用円卓会議(丸善木材(株)、和信化学工業(株)、木育マスター宮川多恵(6期))、根釧西部森林管理署(木育マスター高橋秀明(2期)ほか)、釧路市(木育マスター中井咲絵(6期)ほか)、北海道(釧路総合振興局森林室・林務課、水産林務部森林環境局森林活用課)。1.平成28年6月5日。第2回だいたすホッププロジェクト(釧路短期大学、釧路市)。主催:釧路短期大学(木育マスター塚本久仁佳(6期))、協力:北海道釧路総合振興局森林室、釧路市産業推進室。2.平成28年6月25日。木育教室〜木育ってなんだろう?魚箱トレイを作ろう!(釧路市生涯学習センター)。主催:一財)釧路市民文化振興財団。協力:釧路森林資源活用円卓会議。3.平成28年6月29日。第59回北海道植樹祭植栽会場「サミットの森」下刈り作業(中標津町運動公園)。主催:中標津町緑化管理組合。協力:北海道根室振興局森林室、中標津町。4.平成28年9月15日。林業普及講座(かたばみ興業(株)別営業所管理山林、釧路市音別町)。主催:釧路市立博物館。協力:音別林産振興会、かたばみ興業(株)、釧路市、くしろ西森林組合、釧路総合振興局森林室音別事務所。5.平成28年9月24日。きのこの森づくりと炭づくり体験(緑のふるさと公園、厚岸町)。主催:厚岸町。協力:北海道釧路総合振興局森林室。6.平成28年10月22日。親子で行く地産地消バスツアー(釧路市)。主催:地産地消くしろネットワーク(事務局:釧路市(木育マスター中井咲絵(6期)))。7.平成28年11月12日。2016木育・森づくりリファ(イオンモール釧路昭和)。主催:地域づくり広域プロジェクト環境保全型森づくりプロジェクトチーム、くしろ森と緑の会、根釧西部森林管理署(木育マスター高橋秀明(2期)ほか)、北海道釧路総合振興局。協力:丸善木材(株)(木育マスター鈴木憲太郎(1期)ほか)ほか。8.平成28年12月17日。第3回だいたすホッププロジェクト(釧路短期大学、釧路市)。主催:釧路短期大学(木育マスター塚本久仁佳(6期))、協力:木育マスター鈴木憲太郎(1期)、北海道釧路総合振興局森林室

「木育(もくいく)」とは？

「木育」は、平成16年3月に北海道で生まれた言葉です。

子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取り組みで、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森とのかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。

平成16年度に「協働型政策検討システム推進事業」(検討テーマを公募し、選定されたテーマについて、政策検討から政策提言、施策の実施までを、道民と市町村職員、道職員によって組織されたプロジェクトチームで行う事業で、平成15年度から平成17年度まで実施しました)の検討テーマに、「子どもの頃から木を使うことで森林と環境を考える心を育てる『木育』の推進」が選ばれ、官民協働のプロジェクトチーム「木育推進プロジェクト」を立ち上げ、木育の推進について検討、平成17年3月に報告書「木育(もくいく)～木とふれあい、木に学び、木と生きる～」として理念や推進方法が取りまとめられました。

北海道における「木育」の展開

○木育推進事業

北海道では、翌年(平成17年度)から木育推進のための様々な取り組みを行っています。「子ども未来の森林づくり推進事業」として「わくわく!木育ランド(子どもたち向けの「木の遊園地」)やワークショップ(大人向けの学習会的な講演会)」の開催、「赤ちゃん誕生記念植樹(乳幼児期から森林とふれ、親しむ機会をつくりだします)」の実施、道内全市町村に「げんきの森」(森遊びの達人など、地域の大人たちと一緒に体験活動を行います)を設定してきました。

また、『「木育」地域活動ネットワーク支援事業』として、地域における「木育」活動の実施、「学校での木育推進事業」として、教材の開発、モデル授業、普及啓発パンフレットの作成などを実施しました。

さらに、プロジェクトチームのメンバー有志を中心として任意団体「木育ファミリー」が発足、ホームページやメールマガジン「わくわく!木育通信」、パンフレット等による普及PR活動も実施してきました。

平成21年度には「まちじゅう木育プロジェクト推進事業」として、木育遊具等普及システム検討会議(全6回)を開催、木育遊具等モニタリング調査の実施、木育遊具パッケージシステム(ホームページ上で紹介し、現在も希望者に配布しています)の作成を行いました。

平成23～24年度には「木育活動普及促進事業」として、木製遊具導入施設に木

育マスターなどの木育指導者を派遣し、施設における自発的・継続的な取組となるよう、木育遊具の活用、木工体験・森林観察体験等を組み合わせた木育活動を実施しました。

平成29年度からは、これまで木育マスターの育成・活用を実施してきた「木育推進事業」を拡充し、木育を幅広い年代や地域の人々が意欲を持って取り組める息の長い道民運動として展開するため、子育て支援や食育等と連携した木育の取組、教育と連携した木育の取組を進めています。

○木育マスター育成事業

平成21年度にテキスト「木育達人(マスター)入門」を作成し、平成22年度より「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成するため「木育マスター育成研修」を実施しています。

木育マスター育成研修のカリキュラムは第1章「木育の理念」、第2章「木にふれ、木について学ぶ」、第3章「木と生きる～暮らしと産業」、第4章「木と生きる～人の成長と木との関係」、第5章「木育プログラムの伝え方」、第6章「木育プログラムのつくり方」の全6章に分かれており、これらすべてのカリキュラムと実地研修を修了すると、「木育マスター」として北海道知事に認定されます。

平成29年度までに224名の様々な経歴や職種を持つ「木育マスター」が誕生し、「木育活動普及促進事業」や「木育の産業化等に向けた支援」などにより、「木育マスター」が中心となって、民間企業(団体)等と協働により様々な木育活動を実施し、全道各地で活躍しています【P47】。

また、これから木育活動を進めていく方々に向けて、これまでに育った「木育マスター」による木育活動を「木育事例集」として取りまとめ、ホームページ上で公開しています。

○「希望」を「きぼう」でプロジェクト

平成24年度より、道民の方々のいろいろなメッセージが書き込まれた小さな「木棒=きぼう」をたくさん入れた「きぼうのプール」が全道各地を巡回しています。北海道では、この取組を発展させ、平成26年度から企業や団体に資材の提供について協力いただき、東日本大震災などで被災した方々へのメッセージを添えた「きぼうのプール」を被災地に寄贈する『「希望」を「きぼう」でプロジェクト』を実施しています。

プロジェクト開始から4年目を迎え、全道各地で行われる木育教室などのイベントのほか、協賛企業の社員によるCSR活動の一環として「きぼうづくり(きぼうへ

の応援メッセージの書き込み)」を実施し、これらの「きぼう」を集めて、12月に被災地へ「きぼうのプール」を寄贈させていただきました【P6】。

これまで寄贈した各施設において、道民の気持ちが詰まった北海道産の木製遊具として使用されることを期待しています。

○森林室の取り組み

<教育との連携>

平成28年3月30日に策定された「木育の推進に係る教育委員会と知事部局(水産林務部)の連携方針」に基づき、本庁(教育庁と水産林務部)及び出先機関(教育局と(総合)振興局森林室)単位で木育の推進を図るため、情報交換を行い、具体的な取組を協議する連携促進会議を開催しています。

渡島管内では、連携促進会議で話し合った課題等を踏まえ、各森林室で学校向けの木育活動をPRするためのパンフレットを作成し、それぞれ直接学校に出向いてPR活動を行うことで、学校での木育活動が少しずつ増えてきています。

<企業、団体等との連携>

留萌振興局(木育推進チーム)では、多様な主体と連携した木育の発展を目指す中、平成29年1月、一般社団法人北海道森林土木建設業協会留萌支部より提案のあったタイアップ事業「留萌発「広めよう木育(もくいく)一歩トライアル」」を同支部との協働で取り組むこととし、1月31日に「木育の輪を広げる協働に関する協定」を締結しました【P7】。

本協定に基づき、木育マスターやそれを目指す方々への支援や地域の森づくり活動への積極的な参加、木育マスターと地域の木育活動とのマッチング、木育の広報活動などに取り組んでいます。

<子育て支援、食育との連携>

平成28年9月、オホーツク管内において、「木育」、「食育」、「子育て」をテーマにした「親子で楽しむ3育ツアー」が開催されました【P32】。

木育、食育、子育て支援が連携して、総合的に普及・PRを図る場として本イベントを実施しました。

北海道ではこのような取組が、全道各地の取組として広がるよう、平成29年度から事業により進めているところです。

○木育ファミリーの取り組み

平成17年4月に、木育推進プロジェクトチームの有志による民間の任意団体として発足した「木育ファミリー」は、その年の10月に「木育リビング」(メンバーが木育に関連する講演などのアクティビティを実施)を開催し、これをきっかけに北海道

と協働して木育普及活動を行うようになりました。

平成20年3月には、木育ファミリーが「第1回木育全国ミーティングin北海道」を開催し、平成22年から「木育カフェ」(メンバーによる木育活動の紹介など)を開催、平成25年8月に「第3回木育全国ミーティングinほべつ」を開催し、全国各地で木育活動を行っている方々との交流を図りました。

また、森と人をつなげる木育「北のグリーンウッドワーク」として、使用する道具(「削り馬」や「足踏みろくろ」)を道産カラマツ材で作ったり、実際に伐ったばかりの生木を使ったグリーンウッドワーク体験で小物や家具を作ったりするなど、森林・木材の循環を体験できる木育活動として、力を入れて取り組んでいます。

「木育next10」の開催

平成26年度に「木育」は10周年を迎え、これまでの木育の取組を振り返り、木育の新たなビジョンづくりのために「木育next10」を開催しました。

全道各地で木育活動をしている人の木育に寄せる想いや木育宣言を絵馬に書いていただく「木育絵馬プロジェクト」も同時に実施し、当日、参加者の手で平成16年の台風18号で倒れた北大ポプラ並木の板で作った絵馬掛けに吊るされました。(現在はむかわ町穂別の「むかわ木育の学校」にて保管)

「木育の今」に目を向け、官民協働で行ってきた「木育の推進」を未来へつなげる方向性をさぐり、目標を新たに次の10年に向かって歩き始めることを宣言して閉会しました。

今後の課題など

北海道では、平成28年3月の北海道森林づくり条例の改正により「木育の推進」を明記し、平成29年3月に改正された北海道森林づくり基本計画においても「木育の推進」を基本方向の1つとして、企業やNPOなどの民間、教育関係機関など多様な主体と連携した木育活動に加え、子育て世代や森林への関心の薄い層などへの木育活動を進めることとしています。

「木育」が道民に定着するまでには、まだまだ時間がかかると思われますが、息の長い道民運動として「木育」が地域に定着していくよう、北海道としても、民間企業(団体)への働きかけや情報提供を行うなどして、普及に努めてまいります。



※本ページは、「北方林業2017年秋号 Vol.68 No.4 <特集>木育」(発行 北方森林学会)に掲載されたものを、加筆・修正したものです。

北海道の木育の取組



北海道水産林務部森林環境局森林活用課 主査 阿部博美